

参加と合意形成研究会のキックオフ・シンポジウム  
－新国立競技場計画の持続可能性は？－  
7月11日（金）、千葉商科大学・丸の内サテライトにて

原科幸彦（千葉商科大学教授、東京工業大学名誉教授）を代表とする研究者グループは、公共政策・計画の透明性高い検討により、政府などの意思決定を支援する新たな方法論開発のために「参加と合意形成研究会」を発足させます。これは、ウェブサイトによる情報提供・意見収集と、公開会議とを組み合わせた新たな方式で、様々な公共施策の検討を公衆参加で行うものです。

当研究会の発足にあたり、7月11日（金）に千葉商科大学、丸の内サテライトキャンパスで、キックオフ・シンポジウムを下記の要領で開催します。

このシンポジウムでは、東京五輪の主会場となる国立競技場問題を取り上げます。現競技場を解体し、1,700億円の巨費をかけて建設する新国立競技場計画は、オリンピック憲章とアジェンダ21が求める持続可能性とレガシー（遺産）の継承に反するとの議論もあります。6月末来日のIOC調整委員会も既存施設活用を奨励し、バッハ会長の持続可能性を重視する方針に言及しました。21世紀にふさわしい低コストでコンパクトな大会が求められています。2020東京オリンピック・パラリンピックを真に成功させるため、新国立競技場計画の持続可能性を公開診断します。

●キックオフ・シンポジウム 新国立競技場計画の持続可能性は？

7月11日（金）午後2時～4時半

会場：千葉商科大学・丸の内サテライトキャンパス\*

ウェブ中継実施

1. 参加と合意形成研究会の趣旨 原科幸彦（千葉商科大学・政策情報学部長、東京工業大学名誉教授）
2. 国立競技場問題 浜野安宏（ライフスタイルプロデューサー）  
森まゆみ（作家）
3. 持続可能性診断の方法
  - ・インパクト・アセスメント 原科幸彦
  - ・代替案
    - レガシー継承とその実例 森山高至（建築エコノミスト）
    - 改修計画案 大野秀敏（東京大学新領域創成科学研究科・教授）
  - ・持続可能性診断枠組み例
    - 施設の機能 鈴木知幸（元2016年東京オリンピック招致準備担当課長）
    - 環境影響： 都市気候 三上岳彦（首都大学東京名誉教授）
4. パネル討論

\*丸の内3-1-1、国際ビル1階、皇居側。帝国劇場のあるビルです。Tel: 03-3216-5220  
メトロ有楽町線・有楽町駅直結。都営三田線・日比谷駅直結、JR・有楽町駅徒歩2分。

©問い合わせ先：（幹事）桑原洋一 Tel: 090-5541-3635, [kuwabara.yoichi@uwalumni.com](mailto:kuwabara.yoichi@uwalumni.com)

# 参加と合意形成研究会

## キックオフ・シンポジウム申込書

申込書送付先 E-Mail : [kuwabara.yoichi@uwalumni.com](mailto:kuwabara.yoichi@uwalumni.com)

お名前	
ご所属（会社・学校名等）	
ご連絡先住所・電話番号・ E-Mailアドレス等	〒 TEL : E-Mail :

※いただいた上記個人情報は、本シンポジウム以外の目的には使用しません。

## キックオフ・シンポジウム 会場案内

### 「新国立競技場は持続可能か？」

会場：CUC 丸の内サテライトキャンパス



JR「有楽町駅」より徒歩2分

東京メトロ有楽町線「有楽町駅」直結

都営地下鉄三田線「日比谷駅」直結

国際ビル1F(お堀側) Galleria 商.Tokyo 内

住所：東京都千代田区丸の内3-1-1 国際ビル1F

TEL・FAX：03-3216-5220

E-mail:[galleria-tokyo@cuc.ac.jp](mailto:galleria-tokyo@cuc.ac.jp)

**千葉商科大学**

<http://www.cuc.ac.jp/>

CUC: Chiba University of Commerce